

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
531	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Influence of family factors and supervised alcohol use on adolescent alcohol use and harms: similarities between youth in different alcohol policy contexts. 家族の要因と思春期の飲酒とその有害性についての家族の影響について：飲酒に関する考え方の相違についての類似点	
執筆者	
McMorris BJ, Catalano RF, Kim MJ, Toumbourou JW, Hemphill SA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol Drugs. 2011 May;72(3):418-28.	
キーワード	
飲酒、家族状況、政策、青春期	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> 飲酒に関しての危害を最小限にする政策は、通常青春期の発達の一部であり、また両親が正しい飲酒を促す際、彼らの子供たちの正しい飲酒方法を監督しなければならないことを示唆している。許容度ゼロの政策は、すべての未成年の飲酒を禁止しなければならないことを示唆している。本論文では、危害を最小限にする政策と許容度ゼロの政策について、それぞれの政策を採用した 2 つの州であるワシントン州（アメリカ合衆国）とヴィクトリア州（オーストラリア）の若者層において、青春期の飲酒と家族の影響に関連した仮説を比較した。	
<b>方法：</b> 7 学年の学生（N = 1,945; 989 人の女性）は、各々の州の学校から選択された。学生は 2002 年から 2004 年まで 9 学年に在籍した毎年、飲酒（関連した問題行動）とリスクと保護的要因に関して広範囲に及ぶアンケートを記入した。	
<b>結果：</b> 家族状況と飲酒と有害な関係は、両方の州で同様の結果であった。飲酒に関して大人の監督があった設定においては、有害なアルコールの結果をより高くする事と関係していた。大人の監督があった飲酒については、両方の州で 9 学年の学生双方において飲酒と好ましい親の態度との間に関連があった。	
<b>結論：</b> 2 つの国の政策の違いにもかかわらず、家族の状況と飲酒に関する有害な使用の関係は、著しく類似していた。危害を最小限にする政策の予測に反して、飲酒に関して大人の監督があった設定では、有害なアルコール結果はより高いレベルであった。この調査結果からアルコール使用を監督した害を最小限にする政策に疑問を呈するか、早期の飲酒は青春期のアルコールに関する問題を減らすことが分かった。(J. Stud. Alcohol Drugs, 72, 418–428, 2011)	